

## 審議会等会議録

審議会等の名称	第2回甲州市総合計画審議会
開催日時	平成24年9月28日（金）19:00～20:45
開催場所	甲州市役所本庁舎第一会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	網野貴章、石田道子、岩波学、大村春夫、岡部富永、萱原春美、坂野さおり、志村功、鷹野勝己、中井道夫、中村功、日原健次、樋山太一、松橋勝美（14人） 〔敬称略・五十音順〕
事務局	政策秘書課：菊島課長、中村課長補佐、飯島副主査
議題	1 会長あいさつ 2 甲州市総合計画前期計画の評価結果の報告等（事務局説明） 3 意見交換
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>1 会長あいさつ</p> <p>○ 会長 「前期計画の評価結果の報告について」が非常に長く、事務局から説明をして頂いた後に意見交換の場が設けられているようですので、その際に意見を頂きたいと思います。まず資料の確認をして頂いた後、甲州市総合計画評価結果の報告をして頂きたいと思います。事務局よりよろしくお願い致します。</p> <p>2 前期計画の評価結果の報告等</p> <p>○ 事務局 （資料1、資料2、資料3、資料3-2、資料4、資料4-2、資料5について、資料に基づき説明を行う。）</p> <p>資料1については、平成20年度から23年度までに実施した市の主要事業、並びに、平成24年度に実施予定の事業の一覧である。</p> <p>資料2は、資料3の内容を総括的に体系立てて取りまとめたものとなる。果樹農林、ワイン産業、観光交流、商工業、雇用・勤労等の体系別になっているが、その中で各課がどのような事業をどう評価したのかというところを記載している。</p> <p>資料3は施策の体系ごとに各課の職員が評価をしたものである。</p> <p>資料4は資料3にもある成果指標の項目を特出しにしてまとめたものである。平成20年度時点での指標設定であったので、事務事業評価という施策評価も行っていない段階のものであり、職員もどう進めて行ったら良いのか分からなかった面もある。現況値、目標設定も変えていく必要を感じている。こうした状況を踏まえ、今後見直しを行っていく総合計画は、総合計画でどう進めていくか計画を作り、それに従った成果指標を設定し、さらに5年後に評価をしていくことになろうかと思う。お気づきの点やご意見について質疑の中でお答えさせて頂く。</p> <p>○ 会長 ご意見ご質問ございますか。</p>

- 委員 まず、資料をもう少し分かるように見やすく直して頂きたい。  
A B C Dの評価があったが、施策について評価をするのか、施策にぶら下がっている事務事業を評価するのかが分からない。
- 会長 事務局で出来る範囲でお答えを頂きたい。
- 事務局 資料の作り方が分かりにくいのはそのとおりで反省している。資料が多いことも問題と考えている。次回には一つの流れで整理を出来るようにしたい。見方というところだが、ここについては総合計画の体系ごとに整理をしたものであり、施策評価に使う前の数字がそのままになってしまっており正しくない。評価の方法は、これは事務事業評価だけではなく、施策の成果指標も加味して内容を見ながら評価を行っている。必ずしも事務事業評価と施策評価がイコールとはなっていないが、ご理解を頂きたい。評価シート自体を初めて作ったところがあり、さらに内容を重ねるときちゃんと整理出来たのかと思っている。今回ここで新たに成果指標を設定することになっていくので、その中において見直しを行い、分かりやすく、なぜ結果がこういう評価に繋がったか分かるものにさせて頂く。内容も各課で見直しを行っている。
- 会長 行政で計画を作るだけ作りそのままであることに対し、きちんと評価をした上で、新しく作り直すべきだという運動が20年くらい前から出てきた。様々な議論が行われ、山梨県下の自治体も行政評価の手法を取り入れ、新しいものを作る際には過去の計画を見直すために評価指標を設けようという動きが出てきた。甲州市も初めて行政評価を行い、新しい総合計画を作ろうという手法であった訳だが、事務局も何分初めてのことである。新しい総合計画を見直す一つの道具であると捉え、あまり細かく理解せずとも、なかなか面白い道具だと見てもらえれば良いのかと思う。
- 委員 確認だが、事業評価で配られた資料はあくまで参考資料であって、これを議論するものではない。ただ、これを見ることによって基本構想・計画をどう修正するか、それにどう反映させるかというところで活用するものなのだろうか。  
例えば、雇用のところでD評価があったが、基本計画を見るとD評価をした事業は一つも書いていない。そうすると、事業がDであろうがなかろうが関係ないということになる。そういう参考程度に事業評価を見れば良いのか。
- 会長 この項目がAではないか、Dではないかなど、どういう評価基準を作るかは非常に難しい。その基準が全体を表現しているとは言えない。評価の仕方を議論し始めるととんでもない時間がかかる。この審議会はそういう

ことではなく、総合計画の今後の方向性を新しく見出すことに集約していきたい。よろしいか。

- 委員 委員長の意見はよく理解できる。ただ、今ある資料をある程度理解しないと、その先に進めないのも事実だとも思う。例えば、雇用の話にしても、D評価は事務事業だけで評価しているものなのかどうか。別の方向で見れば本当にD評価に繋がるのかということもある。AだDだというデータを鵜呑みにしていたのではいけない。やはりきちんと資料を理解した上で議論をしていきたい。
- 会長 甲州市の人口の規模でも、実施している事業は何百とある。市長でさえも全部は把握していないだろう。ましてや普通の市民が仕事に携わってない立場で全部理解するのは不可能である。そんな中で何の議論が出来るのかということもあるが、あまりそこは突き詰めずに、一つの参考資料としたくらいの物の見方がよろしいかと思う。今回は事前の資料に加え、修正版や追加の資料もあったので混乱もしたが、1時間半くらいの時間で何を議論して欲しいかという事務局の意図をはっきりして頂きたい。この資料を理解するだけでも何時間かかってしまう。審議会で議論をしていきたいテーマを絞り、資料もそれなりに少なくする方向でお願いしたい。
- 事務局 ご意見ありがとうございます。事務局でも資料を作る中で、見て頂くのも大変であろうし、評価の方法もこれで良いのかという疑問も持った。そうは言っても何らかの評価をするということが必要になるので、このような施策評価のシートを元に評価したものをお配りした。市民の皆さんに分かりやすい形に加工させて頂く。分かりにくくて申し訳ない。職員内でこのような自己評価を行っているというところでご理解頂きたい。
- 委員 全体で何回審議を行うのかを予定してもらわないと、全体を網羅するのはなかなか難しい。テーマを絞っていかないと出来ない。頭に全部入れてからというのはちょっと不可能だと思う。委員の皆さんもそこまで多くは時間も取れないだろうと思う。
- 委員 全部読み込むのは難しいと思う。私は1,000名くらいの民間企業に居たが、行政の場合とケースは異なると思う。評価者が2名というのは圧倒的に少ない。社内での評価は、社員のモチベーションから始まる訳です。社員のモチベーションが低いから業績が上がってないのではないか、だから営業利益が上がっていないのではないか、とかなり細分化したやり方で行っていた。評価の仕方も色々な方面から見る評価があると思う。この評価シートも市民に見せたいのか、それとも市長に見せたいのか。これを評価基準にして

給与に反映されるのか、など色々な見方がある。この評価には改善の余地がまだまだあると思う。

- 会長 民間企業と行政機関の文化は全然違う。日本の市町村は、県も含めて評価制度自体が馴染まない。評価して悪いとなると担当者に責任が行く。その担当も3年くらいで変わり、担当者が責任を取らない文化を支えるために評価シートを作らなかった。それではまずいと、20年前から評価をし始め、少しずつ変わってきた。だからこういう評価をしようとしてきたこと自体がすごいことである。一般市民に向けて恐らく出せない資料である。議会にも出せない。仮に市民に見せた際には、D評価の部署は担当者を変え、担当の給料を下げろという話にもなり得る。公務員の業務は営利目的ではないため、首は切れず、その担当者だけに責任を負わすことはできない。民間企業の評価や文化とは異なる。
- 委員 評価はAでもDでもどちらでも良い。やってみないと分からないことがある。むしろDが沢山あっても良いと思う。評価も物によって数が違う訳だから、それでアベレージが違う。より良い施策を残すかどうか判断基準であるなら、職員をどうこうということではなく、施策自体をブラッシュアップしないと良くなると思わないと思う。行政内で評価をすると、良くない事業はおそらく浮き出て来ない仕組みになっている。よほど悪いものだけが浮き出てくる。業務の一部が悪いのか、全体が悪いのか、そうしたものが分かる評価が必要ではないか。
- 会長 そのとおりかと思う。私どもの言い方で言うと、行政の内部は暗黒大陸であります。誰が何を決めているのか、どんな問題が出ているのかという箇所が分からない。
- 委員 会長の見解と異なる。行政では、昭和50年台にはPLAN、DOシートで計画を立て、行動をして、それに対する評価をちゃんと行っていた。予算査定時には必ず過去の事業の評価をしている。それが今、市役所の場合では担当がAと評価をし、課長がAあるいはBと評価をし、その上で政策秘書課が評価をしているのだと思う。

役所は事業がうまくいかなかったら職員に直接責任を取らせるということはない。計画は議会でもある程度市長が説明をしているから、本当は議会の場で議員に見てもらいたい。最後には審議会の委員さんで決めたら良い。ただそれには資料の数が多から、市民に直結する子どものこと、高齢者のことなど事務局に絞ってもらってやり方でやれば良い。
- 会長 評価項目を絞って、ここでさらに追及していく方向性でよろしいか。

### 3 意見交換

- 事務局 さまざまなご意見をありがとうございます。総合計画に掲載されている指標というところで、資料4の指標の評価の中でここはというものご意見を頂ければと思う。
- 会長 資料4で、評価調書一覧、成果指標が75項目出ている。この体系は現在の総合計画の体系と同じである。これを元にお気づきの点や疑問なりのご意見を頂きたいと思う。
- 委員 目標値の矢印は何でしょうか。
- 事務局 指標として数値が入れないものがあり、明確に設定出来ないものであれば、アップの矢印を入れている。
- 委員 農業関係で言うと、農業粗生産額の24年度の目標値はあるが、23年度の目標値は。
- 事務局 23年度は実績のみで目標は立てていない。5年ごとに目標を設定している。
- 委員 18年度と言うと、すでに農業は過疎化・高齢化で担い手が居なくて困っていた時期である。それでも堂々とアップする目標というのは誰がどうやって決めているのか。
- 事務局 ここはアップではなく、横ばいの目標である。
- 委員 横ばいと言うのであれば判断は誰がしたのか。実績は落ちてくることは間違いなく、訳も分からない目標値があるのはおかしく思う。誰がどういうところでこうした目標値を積算して出したのか。一番初めにある数字がこの様子だと、すべていい加減な数字を書いているのかと思ってしまう。
- 会長 その辺りは事務局いかがですか。
- 事務局 目標値の設定については、平成20年になるが、当時の果樹農林課の担当者は実績値が下がることも予想したろうが、目標値を高く上げていこうということで設定したのかと思う。
- 委員 うちでも桃などを作る中で、共選所でこれだけ作るという目標を立てるが、実績と離れた目標値は立てない。目標を立てたら目標に向かっての大幅な基盤整備をやるなど裏付けがあれば良いが、単に普通の足し算をし、目

標値が減っては格好悪いから同じような数値を設定をしようというのではあまり信用出来ない。

- 事務局 その通りであり、前回の数値の設定が甘かったというところは率直にあるかと思う。そのようなご意見をお伺いする中で、今後数値を設定していく際には、精査をし、現在の状況や将来の推計を踏まえる中で目標を設定するようにする。人口推計においても、前は減る設定も行ったが、やはり想定よりも人口は減り、高齢化率が高まっている。その辺りを出来るだけシビアに考え、一番良い時、中間の時、悪かった時と分け、その中で整理をしていきたいと思う。その辺りの数値を職員にきちんと話をし、極力過去のデータを整理しながら、数値を入れていくように周知を図りたいと思う。
- 会長 あまり時間ないが、それぞれ一番関心あることについてご意見を伺いたい。
- 委員 (資料4) 3ページの子育てサークル(育成支援)というところで、評価がAとなっているが、子育てサークルは数だけあれば良いのではなく、内容に適しているかどうかで評価が入れば良いと思う。
- 事務局 担当課に確認をさせて頂く。内容を数値だけではなく精査をしてということなので、職員に意見を伝え、再度状況を把握するよう指示をさせて頂く。
- 委員 施策の中に見当たらなかったが、甲州市では健康増進の中に地域の産科に対するサポートのプロジェクトを立ち上げた担当もあるかと思うが、それに対しての医療的な取り組みや動きが入っていないように見受けられる。
- 事務局 担当課の内容的なものまでは把握をしていない。調査をさせて頂いて次回お答えさせて頂きたい。対策室を設置し、そこで方向性というものは検討し、市民の皆さんからの意見も頂いている。病院、県などにも働きかけも行っている。ただ、非常に状況が難しいところもあり、皆さんの要望されている通りに行くかという点依然厳しく、その辺りも踏まえてまた回答させて頂く。
- 委員 出来ないからといって目標を立てないのは10年20年後に結局人口に関わってくることである。子育て支援に対し、甲州市はすごく手厚いと思う。ただ子どもを産もうとする意欲を削ぐという部分もあり、ここ数年で100人近くの出生数は減ってきている。5年前には300人だったのが、ここ2年くらいで200人を切っている。産科誘致が難しいのは分かるが、何

か施策として取り組みがあった方が良い。

- 事務局 この内容は成果指標の時にはそういう状況ではなかったので入ってなかったが、今回総合計画を見直す時にはいずれかの指標の設定をして行くことになろうかと思う。
- 委員 実績と目標値をもう一度チェックした方が良い。今の時点で23年度の実績が出ているが、24年度の目標を上回ってしまっているものが多々ある。
- 委員 (資料4) 1ページの観光入込客数の数値は多過ぎる。ぶどうの丘に40万人、宮光園に10万人とか、それら観光客を全部足してしまっていると思う。ぶどうまつりが3万人と言われていて、それが100日分もというのは絶対あり得ない。甲州市を訪れるのは150~160万人だと思う。
- 会長 5年前の当初の指標設定が甘過ぎたということか。
- 事務局 集計の仕方は積み上げで行っている。県は市単位ではなく、峡東地域の括りで数字を公表している。市独自というのがなかなか難しい。特に一番多いのはハーブ庭園の入場数であり、全体の3分の1はハーブ庭園でカウントされていると思う。
- 委員 (資料4) 4ページの医療の件で、塩山病院から産科がなくなったのは18年以降であり、施策として出ていないのだろうが。取り組みとして大藤診療所の医師の確保、勝沼病院の指定管理者制度などどんどん良くなってきてのA評価で、この当時の目標とすればこれで良かったのかなとも思う。ただ、施策上、産科が一番大事だから軌道修正をどこかで行い、産科医の確保を考える必要がある。議題としては難しく目標を立てるのは大変かも知れないが、直接人口にも関わることなので議題認識として入れておいたほうが良い。
- 委員 定期外来を設けるなどやり方はいろいろあると思う。今現在、産みたい人が産めない現状であり、安心して地域で産めるような、新しい世代の人達がここを選んで頂ける、そういう取り組みがあれば良いと思う。
- 委員 この(地域医療施設の充実や救急体制の)満足度は何を何で割った数字なのか。
- 事務局 市民に「救急医療体制について満足していますか」というアンケート

トをしなければ実際に状況が把握出来ないものであり、23年度についてはアンケートを実施していないのでこの数値が把握できなかった。ただ、ここでは、実績はないが診療所が2つ増加し医療機関は充実してきているのでアップであろうと判断し、評価がなされている。

- 委員 資料4のワイン産業では、評価がCやDとあるが、資料3ではA評価とある。資料3に「地場におけるワイン文化の日常化への普及活動を行っていますが、行政へ依存している現状を踏まえ、ワイナリー側が視点を変え、積極的に取り組む必要があります。」とある。ワインメーカーでも一生懸命やっているつもりではいるが、どういうことを具体的に取り組むべきと言っているのか、もし分かれば教えて頂きたい。
- 事務局 この辺りはチェックをさせてもらっているところではあるが、特に「取り組みへの積極性が足りない」、「行政へ依存している現状を踏まえ」というのがどこを指しているのかというのを事務局の方からは言うことが出来ない。確認をさせて頂く。
- 委員 行政にもお願いしている部分はもちろんあると思う。円高がこれだけ進むとEUに輸出してもほとんど赤字覚悟でやっている状況である。また、農業をしようという若手がない現状もある。苗木の補助などの施策をしてもらっているが、もう少し行政が大胆に取り組んでいかないと、ワイン産業が潰れてしまう危機感を我々は持っている。
- 会長 ワイン産業の評価（資料4）がCとかDになっているが、もっと上げても良いのでは。
- 事務局 おそらく内容よりも単に指標数値で評価をしている。ワイン振興事業ということで、ワインを楽しむ会・ワインゼミナールの開催というイベントを開催したと単に書いてある。目標値を1万人に設定したが、実績が6千人だった。したがってC評価であるという単純な評価であり、ワイン産業自体がどのような施策を展開しているかという評価がなかったと理解している。ワイン専用ぶどうの栽培面積についても、苗木が現状幾つで目標値が幾つというところが何も入っていない。面積が広がっていない点で評価をしたのかと思う。

施策の当初の指標設置がおそらくこういう指標ではなく、単なる数という指標であり、インプットというものではなく、これをするによってどんな成果が上がったということが本来の指標である。例えば農業の講演会を10回やったから良いのではなく、参加した人の気持ちに変化をもたらし、そこに来た人が良いぶどうや作物を作るようになった、というのが本当の成



果だと理解している。

平成20年に初めて指標を設定した際に、簡単に設定出来るものを指標としてしまったのかと思う。今回は5年経っており、しっかり指標を設定していく。全体でも数として、75ではなく200程設けたい。その指標の評価の相対が、全体の施策の評価に繋がるようなやり方にしなければいけないと感じている。

- 委員 ゼミナールに参加した人の人数は大して増えていないかも知れないが、参加した人達が勝沼を変えようという動きはあるようである。直接的ではないにしろゼミナールに参加したことで、勝沼を歩く人が増えるなど、いろいろ循環しているのだと思う。そういう評価をちゃんとしてあげないと、ゼミナールに参加した人が増えていないから評価がCだDだというのはナンセンスかなと思う。
- 事務局 そういうことがこの取り組み内容の説明というところで書いてないといけないと感じている。
- 委員 目標値の単位がそれぞれ違う。人であったり金であったり、色々な単位があり、見直す必要がある。ただ数字だけでどうだというのはまずい気がする。
- 会長 行政の評価をする手法の難しさもあるかと思うが、見直しの中では成果指標をもう少し実態と合う形で増やす形になろうかと思う。
- 委員 (資料4) 9ページに防災がある。非常備蓄食料の確保や、普段から災害に備えている人の割合とある。この会議は甲州市の総合計画に基づくもので、この下に個々の見直しの会議もある。現在も防災会議を行っているかと思う。そうすると、ここで議論したことと、別で専門家が議論したこととで全く別物になることもあり得る。専門家が別の場で何を議論しているのか知りたい。防災計画も震災より前に作った計画であろうし。審議会がどういうものがあり、どういうことを検討しているのかを知っておくことが必要である。
- 事務局 本日も男女協働参画の会議を行っているが、目標値も計画の中に入っているものがあるかと思しますので、総合計画に中に取り込めるものもあるかと思う。
- 会長 このあとの方向性もあるのでこの辺りで閉めたい。次回以降、また各方面の各部門の取り組みも教えて頂きたいと思います。今後の方向性を事務

	<p>局からお願い出来ますか。</p> <p>○ 事務局 評価は本日で終わりと考えていたが、とてもそういう状況ではない。次回は資料4の中でご意見があれば頂く機会を設ける。まちづくりアンケート結果も現時点では出てきていない。分析が出た時点でアンケートの内容を説明しながら、資料の分野に限らず、皆さんの興味ある分野でご意見を伺いたい。11月の後半から12月の頭くらいには基本計画の叩き台をお示しし、ご意見を伺った上で概ねの方向性を出したい。</p> <p>○ 会長 次回は10月の末くらいか。前回の議事録が出たが、かなり要約された書き方もあろうが、言った趣旨と違うようであれば次回までに事務局に修正の旨を伝えて下さい。</p> <p>○ 事務局 資料の関係でご迷惑をお掛けしたが、施策の評価は初めてのことで、担当職員と各課職員間で修正作業を重ねながら行ったが、書き方もばらばらのところも多々ある。本来は外部のコンサルに頼んでということも考えたが、職員の手でやってみようということで行っている。今日のようなご意見も沢山頂く中で、後期の基本計画に反映させて参りたいと思う。是非またご意見を沢山頂きたいと思う。</p> <p>評価調書も見直しを進めていくとまた色々出てくると思う。我々でまた見直したものをお出ししたいと思うので、先にご意見等を頂ければもっと手際よく出来るのではないかと思うので、是非よろしくお願ひしたい。我々も一生懸命頑張っていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。本日はありがとうございました。</p> <p>○ 会長 以上で本日の審議会を終了させていただきます。ご苦労様でした。</p>
<p>会議資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (資料1) 第一次総合計画 主要事業一覧 平成20年度～24年度</li> <li>2. (資料2) 総合計画体系表 評価結果</li> <li>3. (資料3) 甲州市総合計画施策評価</li> <li>4. (資料3-2) 資料3 甲州市総合計画施策評価目次</li> <li>5. (資料4) 第一次総合計画 評価調書一覧 平成20年度～23年度</li> <li>6. (資料4-2) 総合計画一次評価 成果指標結果一覧表</li> <li>7. (資料5) 第1回審議会会議録</li> <li>8. 配布資料の説明</li> </ol>
<p>問い合わせ先</p>	<p>政策秘書課 政策調整担当</p> <p>TEL 0553-32-5064</p>